

第3部 パネルディスカッション

みんなが主役となって創る地域社会とは

パネリスト：全講演者

コーディネーター：ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員 澤岡詩野

澤岡（司会）

荻窪家族プロジェクトの百人カサロン、元気づくりステーションのふくろう会。さらに、服部さんのお話に出た、八王子の地域づくりの仕組みづくりへの取り組み。地域への参加、自立を支えるための仕組み、つながりづくり、生きがいがづくり、などなど。海外と日本の事例は、私たちに何を示してくれているのでしょうか。全員参加のパネルディスカッションです。

これからの社会の中で コーディネーターの役割

澤岡 第3部のパネルディスカッションを開始します。まず、パネルディスカッションで、主にどんなことを討議したいかを説明させていただきます。皆さん、第1部と第2部の報告をお聞きになり、どうお感じになりましたか。うちの地元でもやっているよ、うちの団体でも既に取り組んでいるよ。そんなことを感じた方も、もしかすると少なくないのではないかと思います。表面的に見ればそうですが、これらの取り組みに共通するのは、



地域社会への参加であったり、つながりづくりであったり、その中で高齢者の自立をいかに支え、引き出していくかということを目的にしている点です。とても貴重な取り組みだといえます。

また、「ボランティア・コーディネーター」や「生活支援コーディネーター」という言葉も出てきました。日本でこれからパラダイムシフトを迎える中で、コーディネーターの役割が非常に重要になってくると思います。

そこで、「コーディネーター」を一つのキーワードに、お互いの活動、取り組みを聞かれて感じたことや、日本において、コーディネーターはこれからどうあるべきか、どんな姿が理想的なのかということ、そして、本日会場に来られた方々にどんなことを期待したいかといったメッセージなども含めて、皆さんそれぞれ4分程度でコメントをいただきたいと思います。

日本でも、もっと参加型の社会を 国、政府、自治体が作って！

澤岡 まずマリちゃんに、お話を伺います。マリちゃんは昨日、子育てを終えた女性たちが子育て経験や手仕事の経験・知識を生かして、孫育てグッ

ズを開発しながら、100歳まで輝き続けられる、働き続けられる職場「ババラボ」を見に行かれたと伺いました。こういった日本での先駆的な取り組みも含め、「百人力サロン」や「元気づくりステーション」など日本の事例に対して感じたことや、オランダの知見から、もう少しこういうことを含めていくと、日本の新たなパラダイムシフトを進めていくことができるといった、サジェッションがありましたら伺いたいと思います。では、よろしく願いいたします。

マリエツケ 昨日、「ババラボ」を訪問しました。とてもおもしろい場所で、どういうアレンジがされているのか、そして何が重要なのかなど、非常に多くのことを学ばせていただきました。

八王子の取り組みや、荻窪の「家族プロジェクト」、横浜の「元気づくりステーション」、そして「ババラボ」と素晴らしい事例をお聞きしました。皆さんもそれぞれの地元の状況を踏まえつつ、他の人を刺激して、とりいれていただきたいと思いました。私もこれらの事例をオランダに持ち帰り、オランダの福祉の組織で高齢者のために支援活動をしている人たちと共有したいと思います。



それから、本日ここにいらっしゃる皆さんと、政治に関わる人たちへも申しあげたいのですが、オランダでもパラダイムシフトがありました。私たちの場合は、今、参加型の社会に移っていかなければならないと、国王がはっきり言いました。

日本でも国、政府そして自治体が、障壁を越えて、もっと参加型の社会を作っていくことができればよいと思います。

今日ここにいらっしゃって、そして活動されている方は、ぜひ、その活動を続けていただきたいと思います。それが、皆さん自身がどのように活動を続けながら、歳を重ねていけるのか、そしてどのように社会に参加していくのかの良い事例になるとと思いますし、皆さんの人生を目標のある、素晴らしいものにすることができると思います。私が聞いた刺激的なプロジェクトに関わっていらっしゃる方には、お礼を申しあげたいと思いますし、これからも健康でアクティブな生活を続けていただけるとと思います。ただ単に家で座っているのではなく、活動することがとても良いことだと思いますし、そうでなければ人生を楽しむことができないと思います。

行政に頼らず住民主体の通いの場づくり

澤岡 熱いメッセージをありがとうございます。次に松岡さんにコメントをお願いしたいと思います。日本のことを知っておられ、かつ海外をいろいろ調査・研究されているお立場から、日本ならではの姿として、これからどうあるべきかについて、コメントをよろしく願います。

松岡 最初に人口ピラミッドをお見せしましたが、高齢者を支える層が少なくなっていく、高齢者が増えていく。そこで介護サービスのニーズ・提供量が増えていき、制度がたちゆかなくなるという危機的な状況に対して、日本は鈍感であると感じます。一体誰がこの責任を取るのかといったら、誰も責任を取っていない状況だと思います。介護もないし、死ぬこともできないというような時代にならないように、地域の中で支え合うような仕組みを、みんなで何とか作っていかねばいけないと思います。



本日は、非常に希望あふれる事例をお話いただきましたが、私も東京の某団地で、住民主体の通いの場、体操教室を中心とした活動を住民の方と一緒に立ち上げました。そこで痛感したことは、住民たちは、その地域をすごく愛していて、こんないいところはない、ここで最期まで住みたいと強烈に思っておられることです。また、調査の中で、行政に頼るのもいいが、それよりも私たちが何か動きたいというニーズや気持ちがあることが明らかになりました。そこで、じゃあ一緒にやりましょうということで、「ふくろう会」と同じような勉強会の実施を経て、住民主体の通いの場づくりができました。

自治体というのは、要になると思います。何かきっかけがないと活動は進みませんので、住民の方々の力を信じて、きっかけ作りの推進を期待します。しかし、私が活動している場所では、自治体があまり動いてくれませんでしたので、東京家政大学が第三者として入っていくことで動きが生まれました。自治体だけではなく第三者に働きかけてお手伝いしてもらった事例です。住民の皆さんはやっぱり力を持っています。だからそれを信じて何とかいい方向に持っていけるように、自治体は頑張っただけで欲しい。自治体だけで難しければ、どこか第三者に働きかけることがいいのではないかと思います。

それともう一点、本日の事例報告をお聞きし、

無理をしないで、楽しくやるのが長続きのポイントだと思いました。毎日頑張っただけだとすると、しんどくなってくると思いますが、週1回や月2回の活動頻度が主体だったと思います。

澤岡 ありがとうございます。そうなんですよ、コーディネーターは、さきほどマリちゃんのお話にもありましたが、地域の特性、地域資源に応じて、適した人がなれば良いのだと思います。それから、日本では割とストイックに週5日や6日で地域のために担い手として頑張っている方も多いように感じますが、ワールさんや松岡さんのお話にもありましたように、楽しく緩やかに、でも大事なところは長くというところがポイントのかなと思い、コメントを拝聴させていただきました。

コーディネーターといっても 「地域で最期まで」の気持ちが強いだけ

澤岡 次は、瑠璃川さんにコメントをお願いしたいと思います。瑠璃川さんと私の出会いは、10年前になります。瑠璃川さんがこんなことをやりたいと、いろいろな場で語りかけておられたときに会いまして、非常にワクワクドキドキ、こんなことをやりたいという人と一緒に歩きたいと思い、今に至っています。

私という存在が瑠璃川さんにとってコーディネーターなのか、どうなんだろうかというところ



も含めて、今日の他のご報告を聞かれて感じたことや、ご自身がコーディネーターとしてこんなことに気を付けています、こんなことがあればもっと地域の方々がコーディネーターとして活躍していけますという、アイデアなどありましたら、コメントいただけたらと思います。

瑠璃川 まずオランダのお話を聞きまして、私の中には福祉国家というイメージがまだずっとあったのですが、参加型に動いていることを初めて知りました。松岡さんから、日本は危機感を持っていないというコメントがございましたが、地域は動きが緩やかだとずっと感じていて、でもこれをやっていかなければならないと感じていました。

ですから、コーディネーターと言われてもピンとくるものがありません。私がコーディネーターかというそうでもなくて、ただ地域で最期まで暮らしていきたいという気持ちが強いだけです。また、自分一人では暮らしていけないので、地域の人と最期までいたい。先輩たちよりも私のほうが少し若いので、何かできることがあればしていきたい。ちょっと夢のようなことを実現するために、皆さんと一緒にやってもらっているという気持ちだけで、コーディネーターという意識はないです。

澤岡 そうなんです。今日あえて瑠璃川さんをお呼びしたのは、無意識のうちにコーディネーションされているということです。これは非常に素晴らしいと思うのですが、一方もしかすると住民目線で言えば当たり前のことをされている、裏返せばそういうことなのかなとも感じました。それから、瑠璃川さんにとって私はどういう存在なんだろうかと、お話を伺いながら考えたのですが、瑠璃川さんの活動で、多分行き詰まってしまうこともあって、そんな時に何か愚痴を言える第三者、そんなことがもしかすると私の役割なのかなと感じました。おそらく専門家の役割も、コーディネーターとなりうる方の側に寄り添いながら、ちょっと愚痴を聞いたり、ちょっと何か外の話を見せて

あげたりという、第三者、第2.5者だからできるという立ち位置なのかなと感じました。

皆さんの持てる力を ほんのちょっと地域に還元して

次は瀧澤さんからコメントをいただきたいと思っています。海外の事例を含む他の取り組みを聞かれて、瀧澤さんご自身が感じられたことと、コーディネーターという立ち位置で動かれる中で、こんなことも少し気を付けると、地域の中でもいろいろなことが回っていくといった、アイデアやご提案がありましたら、お願いします。

瀧澤 日本において、オランダのようにコーディネーターがボランティアとして根付くのは、なかなか難しいのではないかと、現場で働いていて思います。すごく魅力があるにも関わらず、地域にそれを還元できていない方がたくさんいらっしゃるような気がしています。そういう人たちをコーディネートという枠ではなく、自分も参加しながら、瑠璃川さんのように特に意識せずに地域貢献につながるように、横浜市の保健師として試行錯誤しながら、「元気づくりステーション」を立ち上げているような状況です。

「元気づくりステーション」は、私の担当エリアに5グループあるのですが、「ふくろう会」だけが、男性が半分以上を占めています。「ふくろ



う会」の男性会長のお話なのですが、今までは家と会社の往復で、駅というのは通過点に過ぎなかった。

でも、「ふくろう会」に参加してからは、駅でメンバーに会って立ち話をしたりするようになった。

こういうことは、住んでいる地域の見方が変わってくる第一歩になるのではないかと思います

す。皆さんも持てる力をちょっと地域に還元していただければと思います。

澤岡 本日はかなりの割合で男性の方もいらっしゃいますが、ご自身の当事者視点としてできることや、さらに、力をちょっと地域に還元することが自身の地域での生活をも豊かにしていくというメッセージをいただいたのかなと思います。



自治体職員だけでなく 地域みんなで頑張ろう

では最後に服部さんにお話を伺います。本日のキーワードとなっている「ボランティア・コーディネーター」や「生活支援コーディネーター」ですが、八王子の取り組みでは、コーディネーターはどなたがやられているのか。あるいは、コーディネーターなどなくても成り立っているものなのかを伺います。それと、他の取り組みや海外のお話を伺いながら、今後日本の目指すところを見据え、会場の皆さんへのメッセージをいただきたいと思えます。

服部 八王子市の「生活支援コーディネーター」は、介護保険制度の中で行われています。八王子市のコーディネーターは、1層、2層、3層の構造になっています。第1層は、市の職員。第2層は、各地域にいらっしゃる社会福祉協議会の方々。第3層は、各地域団体にいて、助けられる人と困っている人をコーディネートしているの方々です。活動のための補助は様々な地域の団体に出されています。



なぜ、このような3層構造・体制になったかですが、まず市役所の職員が地域に出たからです。市役所の職員は資料を見ていたり、コンピュータを見ていたりする時間帯がほとんどで、仕事がとても忙しいのですが、しかし地域を知らないと何も施策は打てないということで、地域に出て行ったとのこと。市役所の方によると、様々な方々に出会ってみて、地域にこんなに力がある人がいること、様々な活動がもう地域にあったこと、助けてほしい人もいたこと、何か力になりたいが、まだやっていない人もいたことなど、今まで全く知らなかったことを知ることができたとのこと。



市役所は、自分たちが責任を持って一人で政策を打たなければならないとなりがちですが、「百人力」と同様に、地域の方々100人と一緒にやれば、もっともったいいことができる。だから、コーディネーターをたくさん増やしていこうと考えるに至ったと思います。ワールさんのいるオランダのライデン市役所に、WMOの改革で何が変わったのかを聞いてみますと、オランダでも従来は法律に照らして、これが給付できるのか、できないのかを見ていたが、WMOの改革によって、地域の専門職の皆さん（ソーシャルヴァイクチーム）や、福祉組織など様々な方々とチームを組んで、みんなで取り組んでいく。市役所だけが頑張るのではなく、地域みんなで頑張れば、市役所の職員の負担も多少軽くなるとのことで、日本とそれほど変わらないのではないかと思います。

会場の皆さんへのメッセージですが、オランダと日本を比較して、私が率直に思うのは、日本がなかなかうまくいかないのは、支援対象が要支援者だけだからではないかと思っています。地域には困っている人がたくさんいて、要支援の認定を受けている人だけではなく、要介護、障がい者、子どもなど様々です。オランダでは、そこが分かれていないのです。

地域はひとつなのに、日本では制度が分かれています。制度の縦割りの弊害を乗り越えて地域に委ねていく。市町村が制度を超えて、地域のことを考えて、地域と協力してやっていくという制度的な環境を作ってあげる。さらに言えば、もっと行政を効率化して、職員がもっともった地域に出られるような環境を作ることが必要だと思います。

住民が声を上げていくことが パラダイムシフトにつながるかも

澤岡 ありがとうございました。本日は、限られた時間の中で、海外、日本の多様な皆さんから、

一つのテーマについて、ご意見や取組みについてのお話をいただきました。先ほど地域に委ねていくというお話がありましたが、これは思い描くだけではなかなか動かないことだと思います。この会場にいる全ての人が住民目線で、一人ひとりが声をあげていくことが、もしかするとパラダイムシフトに求められていることなのかなと感じました。

本日は、あえて一つの答えを皆さんにお示しする機会を作りませんでした。それは、参加されている方々のお立場であったり、地域特性であったり、モチベーションであったり、それぞれ異なるものがあると思ったからです。つきましては、それぞれのお話の中から、皆さんが一つでも二つでも、ご自身の活動、ご自身の生き方の宝としてお持ち帰りいただけるような何かを見つけ出していただけたら幸いです。大事なものは、小さなことでも、緩やかでもいいので、明日から、今日からでも価値観を変えていくために動き出すことだと思います。これをもちましてパネルディスカッションを終了いたします。どうもありがとうございました。



アンケート集計結果

1. アンケート回答数

回答数：183名 参加数：206名 回答率：89%

2. アンケート回答者属性

<性別・年齢別>

(名)

年齢	30歳未満	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	計
男性	1	2	10	15	23	36	25	112
女性	1	5	13	17	10	21	4	71
計	2	7	23	32	33	57	29	183

<職業別>

(名)

職業	ボランティア	研究者 (教育機関以外)	地方自治 体職員	ケアマネ ジャー	介護 スタッフ	報道関係	研究者 (大学等の 教育機関)	看護師	ソーシャル ワーカー	医師	保健師	その他	不明	総計
	33	14	12	5	5	5	4	3	3	2	1	87	9	183

3. 今回のシンポジウムに関する感想・コメント（一部紹介）

- * 「してあげる」ではなく「することを支える」が印象に残った。(50代男性、ほか5名)
 - * 地域内の交流、自立支援が重要と認識した。(70代男性2名)
 - * Ageing in Place は、これからの地域社会に求められることとして共感できる。(50代男性)
 - * 介護予防における社会参加の重要性を認識した。(50代男性)
 - * コーディネーターや行政の役割をもっと考える必要があると感じた。(40代女性)
 - * ボランティア・コーディネーターの概念をもっと普及させたい。(80歳以上男性)
 - * 介護、福祉の対象となるレベルを明確にし、重度の方を除き、個人レベル、近隣レベルで解決を図り、コーディネーターの育成についても更に認識を深める必要を感じた。(70代男性)
 - * 総合事業はリエイブルメントに向けた地域作りということが大きな気づきだった。(40代女性)
 - * アクティブシニアをもっと増やすことが大事。(70代女性)
 - * 自立のために、高齢者の働く場を増やすことが重要と感じた。(70代男性)
 - * 海外の話进行伺う機会がなかったので、大変参考になった。(30代女性)
 - * 日本も海外のように社会貢献・社会参加出来る取組みをきめ細かく、しかも早く行うことの重要性を感じた。(70代男性)
 - * 国家よりも、コミュニティの活動のあり方、特にオランダの事例が興味深かった。(80歳以上男性)
 - * 男性の参加率向上のために、企画メンバーとなってもらうことが興味深かった。(70代男性、ほか3名)
 - * 現在運営しているサロンには男性がいないので、本日の話を参考に参加を図りたい。(70代女性)
 - * 荻窪プロジェクトの報告がとても良かった。(70代男性)
 - * 服部さんの話は目からうろこの思いだった。ふくろう会の話も素晴らしかった。(80歳以上男性)
 - * 住民主体の地域デイサービスを開設して2年経過。近い将来この活動がどうあるべきか悩んでいる。もっと地域とのつながりを持つことが必要と感じている。(70代女性)
 - * 住民主体デイケアを立ち上げ、これからどう進めていくか悩んでいる。今回の講演内容を大いに参考にしたい。(70代女性)
 - * 本日の事例報告から自分の地域との比較ができ、現活動に自信を持てた。(80歳以上女性)
 - * 働いていて、現場ではパラダイムシフトが進んでいないと改めて感じた。(30代女性)
 - * 本人のできる部分を最大限に伸ばす支援が大切だと改めて感じた。地域の中で暮らしていくための住民目線が大切で、もっと外に出て、地域を知ろうと思った。(30歳未満女性)
- *なお、今後のシンポジウムで採り上げてほしいテーマを質問したところ、「認知症関連」、「高齢社会におけるICT」、「海外及び日本での在宅介護・看護」、「成年後見制度」、「健康寿命と資産寿命」、「金融ジェロントロジー」、「地域包括ケアシステムにおける企業の役割」、「ボランティアに頼らないケア体制の構築」、「生涯現役の為の企業人の流動化」などのご要望をいただきました。

共催団体紹介

公益財団法人 **ダイヤ高齢社会研究財団**

当財団は、高齢社会の諸問題に関する実践的な調査・研究活動を通じて、民間の立場で高齢社会における保健・医療および福祉等の分野の課題解決に寄与することを目的として1993年に三菱グループ29社により「財団法人ダイヤ高齢社会研究財団」として設立されました。その後、2010年に公益財団法人へ移行し、2018年6月には設立25周年を迎えています。

現在、当財団は「高齢社会における『健康』『経済』『生きがい』に関する調査・研究」、「高齢社会における諸問題に関する意識の啓発活動・活動成果の普及」に取り組んでおり、介護の質の研究、高齢者のライフスタイルの研究、元気高齢者の健康維持に関する事業等で、多くの研究成果を発信してきました。

また、啓発活動の一環として、シンポジウムを毎年開催しており、最近では2014年と2016年に「ストップ介護離職」、2015年に「人生100年時代の『つながり』を支えるICTの力」、2017年には「100歳までのライフプランー将来の経済リスクに今から備える」と、わが国の高齢化の進展にとまなうホットなテーマを採り上げ、社会への問いかけを続けています。

当財団は、今後も高齢者を含むすべての世代が、健やかでいきいきと生きていける「しあわせで活力ある長寿社会」の実現に向けて、学識経験者および行政・関係機関等との緊密な連携のもと、積極的な事業を展開していきます。

一般財団法人 **長寿社会開発センター 国際長寿センター (ILC-Japan)**

国際長寿センター (ILC = International Longevity Center) は、少子高齢化に伴う諸問題を国際的・学際的な視点で調査研究し、広く広報・啓発および政策提言を行うことを目的としています。

現在までに米国、日本、フランス、英国、ドミニカ共和国、インド、南アフリカ、アルゼンチン、オランダ、イスラエル、シンガポール、チェコ共和国、ブラジル、中国、カナダ、オーストラリア、ドイツの世界17ヶ国に設立され、ILCグローバル・アライアンスとして、研究やシンポジウム開催等の共同事業、また、各国独自の活動にも精力的に取り組んでいます。

このILCグローバル・アライアンスは、老年学の世界的権威であるロバート・バトラー博士によって提唱されました。日本では、その志に賛同した民間企業の熱意と、厚生省（当時）の指導の下、3年間の準備期間を経て1990年11月にILC-Japanが誕生しました。

以来、ILC-Japanはプロダクティブ・エイジング*の理念のもとに、数々の調査研究に取り組むとともに、広報・啓発活動にも力を入れてまいりました。

ILC-Japanは、国際的な情報プラットフォームをめざし、すべての世代が支え合い、いきいきと生活できる豊かな高齢社会の実現に向けて、さらに積極的な取組みを進めています。

*プロダクティブ・エイジング：ロバート・バトラー ILC 米国センター元理事長が提唱した概念。「高齢者を社会の弱者や差別の対象としてとらえるのではなく、すべての人が老いてこそますます社会にとって必要な存在としてあり続けること」

国際長寿センター・ダイヤ財団共催 国際シンポジウム (2018年11月16日)
高齢化先進国の日本！ みんなが主役となって創る地域社会とは
記録集

発行 2019年3月



公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団

〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA新宿御苑3階
TEL : 03-5919-1631 FAX : 03-5919-1641



一般財団法人 長寿社会開発センター 国際長寿センター

〒105-8446 東京都港区西新橋3-3-1 KDX 西新橋ビル6階
TEL : 03-5470-6767 FAX : 03-5470-6763

禁無断転載